

はかな過ぎるカゲロウ発見

成虫寿命たった1時間

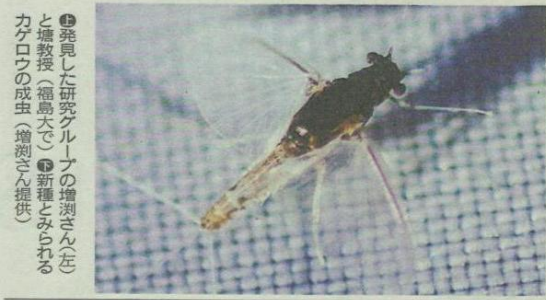
福島大研究グループ

福島大共生システム理工学類の研究グループが、北塩原村の檜原湖近くにある沼で、新種とみられるカゲロウの一種を発見した。カゲロウの仲間は、羽化した成虫の寿命が1日〜1週間程度と短い。今回発見した種は1時間未満と、さらに短命という。グループは、3月2日に猪苗代町で開かれる同大の研究成果報告会で発表する。

檜原湖近くの沼／新種認定へ

見つかったのは、全国各々に生息する「ヒメシロカゲロウ」の一種。人が容易に立ち入れない場所という。

同大大学院の修士課程1年、増淵翔太さん(23)と、増淵謙教授(昆虫比較形態学)らが2011年秋、まえたのは幼虫で、体長が



①発見した研究グループの増淵さん(左)と増淵教授(福島大) ②新種とみられるカゲロウの成虫(増淵さん提供)

約7ミリと、ほかのヒメシロカゲロウの仲間と比べて2倍近いのが特徴だ。その後の詳細な調査で、胸の形状が異なるほか、ほかの種ではみられない、脚に茶褐色の帯状の模様があることが分かった。

世界ではヒメシロカゲロウの仲間は約150種いるが、そのどれも異なる特徴から、新種と断定した。現在、論文を準備中で、専門誌に掲載されれば正式に新種として認められる。

増淵さんは、「最初は新種とは思わず、形態を調べていくうちに新種の可能性が高いということが分かった」と話す。

檜原湖の東側一帯にある沼のほか、福島市の土湯温泉周辺の沼での生息を確認したが、檜原湖そのものには見つかっていないという。

県内の一部の沼で見つからないことについて、増淵教授は「発見した沼はいずれも幼虫の餌となる有機物が多い。生息に良い条件が整っているためではないか」と推測する。

カゲロウの分類に詳しい信州大理学部の東城幸治准教授(系統進化学)は「北方系や大陸のカゲロウは大型が多い。今回の新種もヒメシロカゲロウの仲間では比較的大きく、由来や進化の過程を考える上で興味深い」と話している。